

令和元年・2年度
羽村市教育研究指定校

学校の働き方改革プロジェクト

～教師と生徒が共に輝くために～

羽村市立羽村第二中学校



令和3年1月29日



教育長あいさつ

挨拶

桜沢 修

本校は「学校働き方改革プロジェクト」を主題に、羽村市教育研究指定校として令和元年・2年度の2年間の研究に取り組んできました。本研究では、副主題を「教師と生徒が共に輝くために」とし、教員が心にゆとりをもって子どもと向き合うためには、効率よく授業の準備等をする仕組みが必要であるとの仮説のもと、働き方改革プロジェクト委員会として3つの改革チームに分け、「授業改革」「校務改革」「ライフ・ワーク・バランス改革」について、実践的に研究を進めました。

一例を挙げると、パソコンを効果的に活用することで、時間の短縮を図り、生み出した時間で教員が子どもに向き合い、日々の教育活動の質を確保すること、教材のデータベース化を図り、情報の活用が瞬時に行えるとともに、教員同士、教材の共有化を図ることなど、ICTを活用した研究に取り組みました。また、子どもの学習データを記録・蓄積することで、一人ひとりの理解度に応じた個別学習や、個に応じた指導の可能性、さらに教材研究や教材開発を継続させ、子どもの個別最適化を図り、多様な子どもたちのニーズに応えられるようにしていくことなど、幅広い検討が行われました。

子どもたちを教育の中心に位置付けた働き方改革を実践するためには、教員一人ひとりの意識改革と具体的な取組が重要となります。働き方改革は、喫緊の課題ではありますが、単に労働時間の縮減だけでなく、「教師と生徒が共に輝くために」というテーマを設定し、研究を重ねてきた成果が、市内の各学校における働き方改革の取組の参考となれば幸いです。

結びに、研究発表会に際し、コロナ禍のなか、金子真吾校長をはじめ、教職員の皆様が真摯に研究に取り組まれましたことに対し、敬意と感謝を申し上げ、挨拶いたします。

学校長あいさつ

はじめの一步を味わう

金子真吾

「学校の働き方改革」をテーマとして研究を進めることに躊躇はなかった。

教育に対する情熱をもち、日々、子どもたちと向き合うことは、仕事の意欲の源です。そのために何が必要なのか、時間はかかると思いましたが、「教育とは何か」という本質的な課題に向き合い、実践研究を通じて、一つの山を登ってみようと考えたのです。

しかし、コンセプトに「固定概念をぶっ壊せ」と打ち出したものの、新しい様式に変えることへの抵抗感を感じることは多々ありました。その中で、若手教員を中心にしたプロジェクトチームが、5年後、10年後の理想の職場づくりをイメージしながら、小さな一步を踏みだし、ゆっくりではありますが、プロジェクトは動き出したのです。研究発表会では実践の一端を示すことができましたが、これはゴールではありません。教師であることの喜びと誇りを大切にできる、そんな職場づくりを進めていきます。

結びに、ご支援をいただいた、すべての皆様に心から感謝申し上げます。

羽村二中 働き方改革 校内プロジェクト

よりよい教育活動・教育環境・職場環境に向けての改革

～羽村二中の働き方改革で大切にしていること～

★チーム二中としての改革！

働き方改革はチームとして学校組織全体で取り組むこと、教員それぞれの価値観を尊重しながら取り組むことの両方が大切です。そのため、少人数で活動できるチーム制の導入や、週1回のランチミーティング、教員みんなの意見を公の場で自由に書き込めるアナログ掲示板などを活用することで、改革への意識を全体と個それぞれに浸透させる工夫をしました。

★教員の負担を減らしながら、生徒への思いや教育のクオリティは上昇！

アンケート結果から「生徒と接している時」に仕事の充実感を感じる教員が多く、改革には必ず生徒に良い影響が出るように考えました。この両面を大切にしながら、教員の負担を減らし、効率的な仕事ができるようになり、様々な環境が改善されることによって、生徒にも心のゆとりをもって接することができるようになって考えました。

★時代の変化に合わせて、持続できる働き方改革！

一過性で終わらないように、年度が変わっても継続できる働き方の本質やシステムは残し、継承していきます。

働き方改革プロジェクトのあゆみ

働き方改革を「種を蒔いてから花開く」という成功イメージのもと、計画的に実行しました。環境の変化や考え方の方向転換など臨機応変に動くよう、協働体制のもと歩みを進めました。



研修から「やってみなくては何も始まらない」という姿勢を学びました。



令和元年 4月
プロジェクト始動
メンバー会議
働き方改革説明

令和元年 6・7月
実態調査
教員アンケート
3チームの発足

令和元年 8月
企業訪問研修
取組内容の決定

令和元年 10月
研究授業 (ICT活用)
取組内容の具体的な
計画案検討

令和元年 12月
校内研修会
校務たな卸し作業

令和元年 2月
日の出町視察
改革内容本格始動
に向けた準備



業務の負担を減らすだけでなく、やりがいを感じられるような働き方改革にしたいとの方向性を決定！協働のスタートです！



どんな取組が効果的なのか話し合い、悩みに悩みました！



体育科の研究授業で ICT 活用の可能性の視野を広げることができました。



定期的に行われるミーティングを重ね、成果や効果を狙った取組内容が決まりました。やっとここまでできた！

改革への挑戦



チームミーティングの様子



職員会議後のフチ研修会



生徒会リーダー交流会

改革を行うための苦勞があり、効果や成果が見えづらく、忍耐が必要な時もありました。しかし、その後は効率化が進んだり、モチベーションが向上するなど結果として良い方向に進んでいきました。

働き方改革は制度と意識の両面から改革のアプローチをしていかなければいけません。チーム会議や研修会などにより、定期的に改革への両面サポートを促しました。

働き方改革で得た新しいイメージや環境を生徒の活動にも反映できるようにし、共に輝ける環境づくりを大切にしました。

プロジェクトスローガン 教師と生徒が共に輝くために



3つの働き方改革チーム

働き方改革への活路を3つに決めました。分けることによって「専門的に考えられる」「相互に関係し、高め合える」ことをねらいにしています！

授業改革チーム

教員の協働と弛みない授業改革により「楽しく・分かる」授業を実現する！



ICT 活用による効果的な指導の導入工夫と教材の共有化によって生まれた時間を活用し、教員自身がそれぞれの授業改革に取り組む。

校務改革チーム

校務改善から教員が「生徒と直接関わる活動」に充てる時間を増やす！



校務の全てを一覧・整理する「たな卸し」を行うことにより、教員の負担を減らし、有用な時間を生み出す。効率化できる仕事の制度も導入し、より快適な環境にする。

ライフ・ワーク・バランス改革チーム

職場環境を整え、仕事と私生活のバランスを取ることで自らの人間性を高め、魅力ある教員になる！



教員の超過勤務の課題を休暇制度や部活動、良好な人間関係の構築という面からアプローチする。働き方を様々な視点から見直す機会につなげる。



たな卸しの苦勞により非効率なことや無駄に気が付き、改善することができました。どうしても改善しきれない部分や成果を感じることでない部分もありましたが、改革をすること自体に学校と自分自身に変化の流れが生まれ、一過性で終わらない、核の部分が育ったと感じました。



令和2年 4・5月
働き方改革の取組実施
授業動画配信研修会
動画授業・リモート学活

令和2年 6・7月
たな卸し作業による
校務整理
休暇推進呼び掛け

令和2年 8月
生徒アンケート
教員アンケート
効果の検証と課題解決

令和2年 10・11月
小学校とのリモート授業
授業研究会 (ICT活用)
今後に向けての整理



新年度よりペーパーレスや ICT 活用など改革スタート！急な環境の変化にも素早く対応していくようにしました。



アンケート結果から、意識の変化の違いに気が付き、個々の考えを共有することでさらに研究が推進しました。



授業で効果的に ICT を使う場面も増えてきました。リモート授業は乗り入れ授業や学習教室で実施しました。

成果と課題

★教員の意識の変化による働きやすさの改善！

仕事の充実度アンケート 令和元年度 64% → 令和2年度 70%

「働き方の意識が変わった」「新たなチャレンジで助かる部分が多い」など変化を感じる記述が！

★生徒の授業に対する興味関心・理解が高まり、教員のモチベーションも向上！

生徒「ICT活用の授業の説明の方が分かりやすい」「モニターでの画像や動画が見られて、興味がわく」
教員「生徒が楽しそうに興味をもって話を聞いてくれるようになり、教材作成への意欲がわく」

★働き方改革実行の際にすべての理解を得ながらどう進めていくか！どう継続していくか！

どの改革活動においてもデメリットを感じる教員のケアやフォローをどのように行っていくかが課題である。改善に向けては、臨機応変な姿勢と話し合いや、共通理解、協働していくことが大切である。

未来へつなぐ二中働き方改革

★これから先も継続して良い部分を残していくため！教師と生徒が共に輝ける学校のため！！

- ・一過性の研究にならないために、来年度、「働き方改革プロジェクト」委員会を発足し、継続する。
- ・改革へのモチベーション維持と日々の改革研究のために、定期的なランチミーティングを実施する。
- ・GIGAスクール構想を有効活用した働き方改革推進のために、誰もがICTを効果的に活用できるような研修会を実施する。

授業改革チーム



教員の協働と、弛みない授業改革により 「楽しく・分かる」授業を実現する！

ICTを活用した授業実践

具体的な取組

- ・生徒がICTを活用した授業、発表会
- ・ICTを活用した授業実践&授業改善
- ・リモート授業や動画配信
- ・授業で活用できるアプリや技の紹介

成果

- ・校内研修を通して、全教員がICTを活用した授業実践、授業改善に取り組み、スキルアップすることができた。
- ・ICTを活用した授業は生徒の集中力、興味関心を高める一助となっている。生徒への授業アンケートでは、8割の生徒が、より分かりやすいと答えている。

課題

- ・ICT授業に慣れるまでは準備時間がかかる。

教材の共有化

具体的な取組

- ・各教科の教材共有フォルダの作成
- ・教材の共有物紹介

成果

- ・共有化を通して、教科間のコミュニケーションが増えた。
- ・教科間で指導方針や指導方法を揃える一助となった。
- ・教科間で教材を共有することで、より良い教材を作れるようになった。

共有例

ワークシート、画像、動画、スライド
小テスト、テスト対策プリント、採点基準、成績
授業の進捗表、教科内の仕事のデータなど

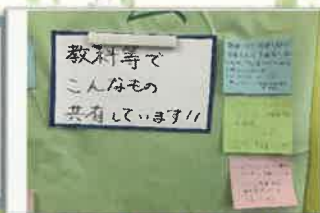
実践紹介



- ・**体育(マット運動)の授業**
ipad を用いてフォームを確認し話し合うことで、改善点を視覚的に理解することができた。

職員室内にアナログ掲示板を設置

個々の都合のよい時間に気軽に記入し、全教員で意見共有することができた。



- ・**小学校とのリモート授業**
中学校教員が中学校で、小学校の複数のクラスを同時に指導することができた。

実践例

- ・休業期間中の配信授業一覧
- ・算数数学乗り入れリモート授業指導案
- ・授業、教材準備に使えるアプリ紹介



◎児童の感想

「他のクラスとも一緒に楽しめてよかった」
「初めてのオンライン授業で違和感があるかと思っただけどその場に居るかんじだった」
「毎日オンライン授業がいい」

今後の取組

- ・1人1台端末での実践がスムーズに運用できるように校内研修会を行う。
- ・今後もICTを活用した授業実践と教材の共有化を図る。

校務改革チーム



校務改善から教員が「生徒と直接関わる活動」時間を増やす！

3つの取組

たな卸しからの校務改善

- ・ たな卸し
各担当教員が校務を全て書き出した。* 1
- ・ 校務の見直し
たな卸しの結果を基に改善が可能な校務を絞り出した。
- ・ マニュアル化などの改革の実施
分掌ごとに校務の削減などを行った。* 2



* 1、* 2

データフォルダ整理

- ・ 共有フォルダの整理
煩雑になっていた共有フォルダを整理し、管理方法を年度から分掌ごとに変更した。
- ・ データマップの作成
データの保存場所を明らかにするためにマップを作成した。
* 3



* 3

ペーパーレス化

- ・ 職員会議資料のデータ化
会議の資料をデータ化することで印刷や書類整理の時間を削減した。
* 4
- ・ 教員配布資料の精選
全員に配布する必要のない資料は配布せず、回覧した。



* 4

*のついているものは、QRコードからデータに飛ぶことができます。ぜひご活用ください。

成果と課題

成果

- ・ たな卸しを行い校務の見直しをすることで、校務改善を進めることができた。
- ・ マニュアル化により校務における引継ぎがスムーズになった。
- ・ データの保存場所が分かりやすくなり、データを探す時間が省かれた。
- ・ ペーパーレス化で職員会議資料約 10,000 枚を削減、書類整理がしやすくなった。注 1
- ・ 教員ではなくてもできる仕事をスクールサポートスタッフ等の外部人材に委ねた。
(スクールサポートスタッフにより生まれた時間 760 時間) * 5
- ・ 校務改善を行った結果、生徒と関わる時間が増えたと感じる教員が増えた。



* 5

課題

- ・ 生徒と関わる時間が増えたのか分からず、校務改善の効果を感じられない教員がいる。
- ・ ペーパーレス化によって、反って必要な情報を探しにくくなった。

注 1 職員会議資料 1 人年間約 340 枚 × 3 0 部

今後の取組

- ・ マニュアル化、データフォルダの整理を進めていく。
- ・ 定期的に校務を見直し、改善の機会を設けていく。

ライフ・ワーク・ バランス 改革チーム



* 1



『仕事と私生活のバランスを取ることで
自らの人間性を高め、魅力ある教員になる！』

3つの柱

1

ライフ・ワーク・
バランスの
充実

2

より良い
職場環境・
人間関係

3

部活動改善

具体的な取組、実践

1 ライフ・ワーク・バランスの充実

- ・教員のニーズに合わせた休暇取得の推進、意識改革
(アニバーサリー休暇、ローテーション休暇、定時退勤ボード、職員室モニター活用)



アニバーサリー休暇

自分や大切な人の記念日等に休暇を取ります。前もって周囲に知らせておくことで補教等が組みやすく、休暇を取りやすくなっています。

2 より良い職場環境・人間関係

- ・机上整理日(職員会議後)
- ・チームワーク研修

チームワーク研修

チーム対抗卓球大会を行いました。体を動かすことで心も体もリフレッシュ！チームリーダーを中心に作戦を考え、みんなで目標に向かう大切さを共有しました。



3 部活動改善

- ・顧問の持ち方(アンケート)、部活動の運営の仕方の話し合い



部活動改善

部活動に対するの困りごと、やりがい等をアンケートで挙げてもらい、表にしました。その後、顧問希望部活動アンケートを取り、みんなで調整していきました。

成果と課題

成果

- ・休暇取得を事前に周知することで、補教等も計画が立てやすくなった。休暇に対する意識改革にもつながった。
- ・チームワーク研修を通して、同僚の意外な一面が見られ、チーム一体感の高まりを感じた。
- ・部活動に対して、全教員の希望を聞くことで、調整して部活動を受けもつことができている。また、運営についてみんなで話し合うことで他の部活動の顧問であっても協力していくことを確認できた。

課題

- ・みんなが働きやすい環境を作っていくためには、意識改革、環境面などまだまだ課題がたくさんある。どのような取組をしていけば、よくなるかという正解がないのが一番の課題。「とりあえずやってみなければ分からないので、色々やってみよう」というスタンスで今後も取り組んでいきたい。

今後の取組

- ・休暇制度を継続し、休暇を取りやすくするための選択肢の一つとして活用していく。
- ・チームワーク研修の内容や場面をさらに工夫し、実施していく。
- ・部活動に関しては、次年度もアンケート調査や話し合いを行い、よりよい部活動運営を築いていく。